

久保田博南 著

医療機器

生き立ち・役目と働き・望まれる姿



医療機器を用いた医療に携わる医療関係者およびそれを目指す学生にとって、絶好の書が出版されたと思う。著者の久保田博南氏はもともと工学部出身であるから工学の専門家であるが、日本光電工業(株)に在職中、長年にわたり各種の生態情報モニタの研究開発に従事された関係上、臨床の現場との接点が多いのと同時に、医療機器に関係する多くの医療関係者との交流を持たれ、医学医療の知識を幅広く学習されたのではないと思う。このことは、本書の中にも少なからず影響を与え、今までにない真に役立つ医療機器に関する教科書ができあがったと思う。

第一部の基礎編では、各種医療機器の発明に関わった人たちとその努力の歴史、医療機器に関係する工学の基礎、医療機器に関係する国際規格と国内規格、医療機器を法的に規制する薬事法などについて解説されているが、実際の医療機器やそれに関連する技術の多くのことが医療との関係でわかりやすく述べられていて、医療機器の基礎およびそれを取り巻く環境を理解するのに大変役立つと思う。

第二部の本編では、生態情報モニタ群、ME計測機器群、画像診断装置群、循環機能治療機器群、呼吸機能治療機器群、一般医療機器群等医療現場で使用されるほとんどの医療機器が取り上げられている。医療機器を勉強する場合、個々の医療機器の歴史、原理、構造、操作方法、使用上の注意などを理解すると同時に、当該機器の医療の現場での役割、すなわち、その機器が使用される疾病の病態、機器が使用されることによる影響などを理解する必要がある。本書では、40余の医療機器について簡潔かつわかりやすく説明され、機器の理解に大いに役立つと思う。とくに著者の専門のモニタ機器や計測機器の項では、工学的なことはもちろ

- ・真興交易(株)医書出版部
- ・2010年4月15日 第1版第1刷発行
- ・A4判/204頁/並製本
- ・定価(本体4,200円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-839-1

ん、機器が診療に用いられる人体の生理現象や適応疾患の病態との関係が詳細にしかもわかりやすく説明され、私自身も医療機器に関して改めて勉強することができた。

医療の現場では、医療機器が果たす役割が重要なことは衆人が認めるところであるが、一方では医療機器に関係したトラブルがマスコミに時々取り上げられている。医療機器に関係するトラブル発生には、いろいろな原因が考えられるが、医療関係者に対する医療機器に関係する卒前・卒後教育が必ずしも適切に行われていないことが挙げられる。医療機器の『安全』に対する社会の要望が高まりつつあり、本書は非常に良い時に出版されたと思う。

医療施設で実際に医療機器に関係する医療関係者、それを目指す養成校の学生はもちろん、医療機器を含めた関連業界で活躍する人たちの一人でも多くの方が本書により勉学され、わが国の医療機器が医療現場でその持てる力を安全にしかも十二分に発揮されることを希望する。

渡辺 敏

((財)医療機器センター理事長；
北里大学名誉教授)